

令和6年度第1回三重県看護職員確保対策検討会 議事概要

日 時：令和6年9月3日（火）19時00分～20時40分

場 所：Zoom および県庁講堂棟3階131会議室

出席者：堀委員（会長）、奥野委員、片田委員、小西委員、
竹平委員、谷委員、辻井委員、中谷委員、西委員、
樋浦委員、廣野委員、松本委員、柳川委員、山北委員

1 報告事項

(1) 看護職員の現状・・・・・・・・・・・・・・・・資料1

(2) 令和6年度三重県看護職員確保対策 体系別事業・・・・・・・・資料2

【意見】

- 18歳人口の減少に伴い、看護師等養成所では学生確保に苦慮し、経営面で逼迫している。看護師等養成所運営費補助金では、退学率による加算措置が設けられているが、一律に補助するような制度設計としてはどうか。学生数が減少したとしても、教員数を同程度確保する必要があり、維持管理費等も発生する。
- 学校運営については、県に金銭的な支援を求めるだけでは済まない問題もあり、突然の閉校などが起こらないよう、事前にそこに至るまでのソフトランディングな方法を学校側も考えていく必要があるのではないか。

(3) インドネシア保健省との人材育成に関する覚書の締結・・・・・・・・資料3

【意見】

- インドネシアの看護系大学のカリキュラムが、日本国内で看護職の資格を取得するための要件を満たしているか、日本で国家試験合格のレベルまで達することができるかなど、今後きめ細やかに確認していく必要があるだろう。
- 経済連携協定（以下「EPA」という。）に基づく外国人看護師候補者の受入については既に運用されているが、国家試験に合格できず、帰国する方も一定数いる。そうした経験を活かさないと、同じことの繰り返しになり得る。
- EPAに基づく外国人看護師候補者の場合、国家試験合格まで看護補助者として雇い、医療現場で看護や日本語を学んでもらう場合がある。覚書締結後の方向性について参考としてはどうか。
- インドネシアの方々の受入について、病院のみならず、特に語学教育については教育機関も協力していくとよいのではないか。
- インドネシアはイスラム圏であり、礼拝室の用意など文化や生活面で配慮が必要なことについて情報収集を進めていただきたい。

2 協議事項

(1) プラチナナースの活用について・・・・・・・・・・・・・・・・資料4、6

【意見】

- 潜在看護職員向けの無料職業紹介や施設見学を継続的に実施願いたい。
- 定年退職前後になると体力的な問題も出てくるため、本人にどういった働き方を希望しているかなどを聞き取りながら、就業の継続につなげている。
- 訪問看護職員は、訪問看護や看護管理者を未経験である方も少なくない。訪問看護の現場においても指導を実施していけるとよいと思う。
- 新興感染症の感染拡大時や災害時に、プラチナ世代の保健師に力を貸してもらえるよう準備を整えておくことよいのではないかと。
- ハローワーク津には人材確保コーナーを設置している。介護、看護、保育、警備、運輸、建設業において特に人材が必要とされており、求職者を求人事業所に紹介して充足させるということを重点的に行っている。ハローワークの利用者は高齢化が進んでいる。

(2) 看護職員の離職防止・定着促進について・・・・・・・・・・・・・・・・資料4、6

【意見】

- 看護職として働くためのストレス耐性を学生時代から身に付けてもらうような教育(レジリエンス教育)に関して行政が学校とともに取り組んではどうか。
- 看護協会から病院に対して精神的健康理由による退職者が増えていることを伝えてきた。各病院においても早期から対策を講じており、今年はそれほど離職者が多くないという印象を受けている。病院や学校などでは、これまで以上にメンタルサポートに重点を置いて取り組んでいる。
- コロナ禍で学生時代を過ごした方はメンタル不調に陥りやすいと思うため、今後も引き続きフォローしていくことが大切である。

(3) 看護学生の確保に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・資料5、6

【意見】

- 学生向けにさまざまなイベントを開催しているが、参加者はその後看護の道へ進んでいるのか。追跡調査で効果検証し、事業を適宜見直してはどうか。
- 職業選択のミスマッチは、どの領域でも起こり得るが、高校以前から看護の仕事を知り、看護師等養成所に進学してもらうというのは意義深い。
- 高校では学生に対してイベントのチラシを積極的に配布し、特に1～2年生で必ず一つは参加するように、3年生になっても別のところを見に行き比較検討しながら進路を決めるよう指導している。
- 看護教員の高齢化が深刻となっており、若い看護教員が増えないとますます教員が不足し、学校の力がなくなっていくのではないかと懸念している。
- 看護師等養成所では、オープンキャンパスの回数を増やしたり、小中学生を対象に看護職の仕事紹介を行ったりして学生確保に向けて努力している。